

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1995年 11月2日 発行

ディークマン
12 独大使歓迎
7周年大会号

発行者 平形義人

発行所 ぐんま日独協会

〒371 前橋市三俣町3-11-12

☎0272-31-7212 FAX0272-32-4082



・第7回 ぐんま日独協会大会

・平成7年4月23日

・群馬会館

□ハイマート12号の主な内容□

- 4月 7周年大会・総会・独大使講演… 2～4
- 5月 独日協会総会(於 ザールブリッケン市)… 5
- 会員のお便り、文芸 } …… 6・7
- 料理の紹介 }
- ニュース・本の紹介… 8

* お知らせ *

ぐんま日独クリスマスの集い

- ・日 時 '95.12.9(土) PM 2:00～4:30
- ・群馬会館 (地下食堂)
- ・会 費 2千円(当日受付)
プレゼント(千円相当)
各自1個御持参のこと
- ・申込み 11月末締切り、電話可
- ・5分間スピーチ希望者は受付まで
- ・駐車場は県庁・市役所・利根川河岸敷をご利用下さい。

題字：平形義人 表紙写真：石井直人

Dr. H.D.Dieckmann 大使夫妻を迎えて

会長 平形 義人

7周年大会は、ドイツ連邦共和国大使夫妻・木村敬三前駐独大使夫妻のご来県を仰ぎ、小寺群馬県知事、藤井前橋市長、西田沼田市長、佐鳥上毛新聞社長、湯浅群馬TV社長等々群馬を代表する方々の御登場を願い、桜花の春の上州に親しんで頂き、群馬会館での有志歓迎昼食会、記念大会、講演会、総会、両夫人市内観光等々の盛沢山の行事を、村山雅子国際交流課長をはじめ県国際交流協会、前橋市等の御指導の下に、滞りなくすますことの出来ましたことは、「日独親善は群馬から」と7年に亘り培われた会員皆様様の精進の賜と深く感謝します。以下写真を以って報告に代えます。

(日独親善ゴルフコンペ)



- | | | | | | | | | |
|------|------|-------|------|------|-----------------|-------|--------|------|
| (後列) | 須田書一 | 小和瀬忠男 | 田中守 | 田島昭三 | 白井よし子 | 石坂寛 | 岸三根子 | 堀口靖之 |
| | | 後藤昭二 | 湯浅忠男 | 湯浅忠男 | ！ディークマン・デナウワー夫人 | 萩原喜美江 | 萩原喜美江 | 堀口吉七 |
| | | | | | H.D.ディークマン大使 | 高野南美江 | 木村敬三大使 | 木暮幸子 |
| (前列) | 富岡義之 | 島田幸弘 | 平形義人 | | | | | 大島陽子 |



ロイヤルホテル屋階より初めて上州をみる大使



ロイヤルホテル到着
(左より シュルテ参事官、ディークマン大使、塚越理事)

(ぐんま日独協会設立7周年大会)

●昼食会



Dr.H.D. ディークマン大使夫妻歓迎昼食会 (於 群馬会館)

●シルクフラワー贈呈 (藤川喜子作)



(左より) 土屋常任理事、平形会長、ドイツ大使夫妻、シュルテ参事官、木村先生夫妻、朝雲副会長



小寺知事 表敬訪問



藤井前橋市長 表敬訪問



渋川日本家庭訪問

日本墓地視察

「我がゲルゼンキルヘン」

GLüCK AuF!! 写真集

高口 岳彦、対馬 良一

敗戦直後エネルギー問題解決の日本使節として、1958年より3年間ドイツに派遣され、自ら炭鉱に入山し、技術習得をすると共に、日独親善友好を実践され、本紙9号に紹介された様に「地底の客人」を著はしたが、その大きな反響に応じて、この度この写真集を完成された。本書は朝日独協会理事花井 清氏の御推薦を頂き、ぐんま日独7周年大会席上、Dr.H・D・ディークマン大使に著者から直接奉呈され、日独友好の証となった貴重な本。"グリュック・アウフ、とは"ご無事で!!。という炭鉱入山の挨拶である。

(申込は当協会対馬良一常任理事まで)

(Glück Auf ゲルゼンキルヘン会 ¥5,000円)

●高口岳彦、対馬良一 Glück Auf 写真集贈呈



●総会

平成7年度総会に会務報告をする須藤副会長

(左より) 平形会長、角田議長、伊藤会計



●大会終って懇親会

佐藤副会長 石井常任理事、背中は田所会員、対馬、高口両氏の顔も見える。



●ゴルフコンペ前日の伊香保にて懇親会



Zur Erinnerung an schöne, unvergessliche Tage
mit der JOL in Itako und voller Dankbarkeit
für die erwiesene Gastfreundschaft
Heinrich-D. Dieckmann 22. April 1995
Irene Dieckmann - Adenauer
Witfried Hühne

ぐんま日独協会

平成6年度
＜決算書＞

平成7年度
＜予算書＞

収入の部			収入の部		
項目	金額	説明	項目	金額	説明
会費	1,137,500円	会員会費 3,000円×196人=318,000円 家族会費 500円×19人=9,500円 法人会費 10,000円×48人=480,000円 平成6年度大会参加費 2,000円×98人=196,000円 「クリスマスの集い」参加費 2,000円×67人=134,000円	会費	1,190,000円	会員会費 3,000円×130人=390,000円 家族会費 500円×20人=10,000円 法人会費 10,000円×35人=350,000円 平成7年度大会参加費 2,000円×129人=240,000円
雑収入	211,750	寄付金・料子等	雑収入	50,000円	寄付金・料子等
前期繰越金	285,767		前期繰越金	240,690円	
計	1,635,017		計	1,480,690円	
支出の部			支出の部		
項目	金額	説明	項目	金額	説明
会議費	353,810円	平成6年度大会費 280,000円 会議費・他 73,810円	会議費	440,000円	平成7年度大会費 320,000円 会議費他 120,000円
通信費	146,930	郵便切手・他	通信費	150,000	郵便切手・他
事務費	148,246	事務所借り上げ・他	事務費	150,000	事務所借り上げ・他
印刷費	452,170	会報・名簿他	印刷費	460,000	会報・名簿他
図書研究費	99,910	図書購入他	図書研究費	100,000	図書購入費他
講演会費	90,470	会場借り上げ他	講演会費	50,000	会場借り上げ他
広報費	102,791		広報費	100,000	
次期繰越金	240,690		次期繰越金	30,690	
計	1,635,017		計	1,480,690	

※ 3月31日現在 収入支出差し引き残高 240,690円

1995.4.14 上記の通り相違ありません 会計 古屋賀津子 監査 黒田とめ子

「ドイツの若者」

本日は、「ドイツの若者」というテーマで講演する御依頼を受けております。これは本当に包括的なテーマですが、ごく簡単に御紹介するに留めまことを御理解いただく存じます。講演後の質疑応答で、個々の問題を掘り下げることができるのではないかと希望しております。

ドイツ連邦政府にとりましては、青少年政策は将来に向けた政策なのであります。青少年は我々の未来だからであります。経済政策や金融政策、教育や技術政策、そして平和や防衛政策の何れにしろ、あらゆる分野の政策が、青少年の状況に直接、影響を与えるのであります。これらの政策は、若者が家族、職業、社会のなかで自分の地位をみつめるよう、その自立と責任を促し、権利を全うし、義務を果たすことを学ぶ目的で立てられるべきであります。一つだけ先に申し上げたいことがございます。それは、若者たちが、我々の社会で認められた価値を支持していることでもあります。若者の圧倒的多数が、家族、民主主義、他人を尊重することを是認しているのです。

ドイツ連邦共和国内には、14才から28才の青少年が約1600万人おります。その内の約10%が外国人なのです。32%がトルコ出身、17%が元のユーゴスラビア出身であります。10才から18才までの外国人若者の半数以上が、ドイツで生まれ育っております。そして、ドイツに留まりたいとの意志をはっきりと述べております。これらの外国人若者は、両親の生まれた国を知るのとは休暇の時だけという場合が多く、一部は、母国語よりもドイツ語の方を流暢に話すのです。両親が生活の基準とするルールに従うことは、多くの若者にとって、到底、考えられないことなのです。

連邦政府は、ドイツ統一後に特に責任の重い課題を課せられております。独裁的国家で成長した若者たちは、多元的社会と社会市場経済を基盤とした、自由で民主的な国家のシステムに何の準備もないまま馴染まなければならないのです。

こうした変革の状況にあつて、若者たちは一人立ちしなければならないのです。両親や教師といった大人や新たに築かれた社会的国家的機関は、まだそれぞれの役割を見出していないからです。社会主義国家の権威的秩序は消え、民主的で自由な国家の権威は、今後、尚、堅固なものとならなければならないのです。

こうした変革の状況は、中央統制的な管理経済から社会市場経済への移行に伴う社会的経済的な困難によって、一層助長されております。失業とそれに基づく心理的社会的緊張は多くの者にとって、将来への不安や人生の目的の喪失を特徴とする状況を作り上げているのです。

また、家族、教会といった従来の組織が権威を失っているという事実も、若者を不安にしております。また、環境保護、社会保障制度の確立、新たな雇用の創出、ヨーロッパや世界の平和といった、今後数十年に解決されなければならない数多くの世界的な問題に直面し多くの若者がこれを重荷に感じているのです。

しかし、全般的には、ドイツの若者は、現存の諸問題を極めて現実的に判断しながら、自分達の将来を、かなり肯定的に考えております。西の95%、東の83%が自分の生活に満足しているのです。

家族と結婚は、若者の価値基準ではかなりの上位を占めております。若者の大半が、パートナーとの幸せな共同生活や協力関係の中でパートナーを裏切らない事、子供を持つ事、幸福な家庭生活を送る事を希望しております。興味深いことに、家庭指向は、東の若者で一層強くなってあります。

結婚形態を取らない若者の共同生活は、むしろ結婚への移行過程と考えれば良いでしょう。こうした共同生活を営む20才から25才の若者は、およそ9%にすぎません。以前より、西に比べて東の若者の結婚率の方が著しく高くなってありますが、これは、旧東ドイツでは、早いうちに結婚したからです。西に於ける結婚の平均年齢は、男性で約28.2才、女性で25.7才であります。旧東ドイツでは、これが、約2〜3才低くなってあります。東の若者が早くに結婚したのは、西よりも早いうちに就職したこと、そして大学卒業後に同じ町で就職するには、学生時代に結婚するしかなかったためであります。

若者が家族に大きな価値を置いていることは、同年代の友人よりも両親の方に自分の悩みや苦しみを打ち明けれるという調査から明らかであります。

ドイツ連邦共和国に於きまして、テレビを中心とした、常に増加するメディアの情報が教育関係者に、益々難しい課題を課しております。かつては、家庭、学校、教会が伝統的にキリスト教に基づいた価値体系や方向性を与えていたのですが、メディアの影響により生活様式と余暇の過ごし方が多様なものとなり、それが、また、成熟した共同体の弱体化と社会的なコントロールの喪失を招いているのであります。幼稚園、学校、そして特に家庭が、責任を自覚したメディアの受容ができるよう、青少年を教育する義務を負うべきであります。

宗教と教会への帰属の間に、信仰する宗教なしとの答えは、西では11%にすぎませんでしたが、東では78%に上りました。これは驚くことではありません。

伝統的にキリスト教に基づいた価値観が後退するに伴い、所謂、若者対象の新興宗教集団が青少年の間で人気を呼んであります。多くの若者が、現実の日常生活での矛盾に対処する困難を抱えてあります。彼らは、分かりやすい単純な解決法を求めておりますので意義ある人生、安心、平和、平安、愛を約束する新興宗教集団に取り分け惹かれやすいのです。

勿論、ドイツの若者の間にも麻薬の問題はあります。しかし、大切なのは、

ハードドラッグを使用している12才から24才までの若者は、約0.5%しか見られない事です。青少年や若者の大多数が、今日、わずか10年前や15年前と比べると麻薬に批判的になっているのです。

若者の90%という圧倒的多数が、民主主義の理念を支持しております。社会主義を支持する者は、西で僅か16%、東では40%であり、この中でも、旧東ドイツで実践されていた社会主義は、全員が拒絶していると言って良いでしょう。

しかし、自由な社会とは、その市民が公共の責任を運んで負うことで成り立っているのです。そうでなければ、学校、家庭、教会、政党に課せられた多様な課題は解決できません。残念ながら、ここ何年かの間、無報酬の活動に取り組みもうという青少年の自発性が減退しております。ここでは、ドイツの東西の若者に注目すべき共通性があります。自己実現や批判能力、努力という価値は大切にしますが、社会的責任や義務は、さほど重視されていないのです。青少年に社会的責任を引き受けるよう、一層の自発性を換気することは家庭と学校の課題なのです。

従って、ここ数年の連邦議会選挙の若者の投票率は平均得票率を下回るものでした。国民全体の投票率は約76.3%でしたが、若者の投票率は、西側で約67%、連邦新五州で56%に過ぎませんでした。

暴力、外国人排斥、極右主義は、ドイツ並びに世界でここ数年、大きな注目を巻き起こしたテーマであります。暴力を無くすことは、国の手段だけではできません。人間の尊厳と権利の尊重を中心価値とした青少年教育が、急進主義や暴力の芽を効果的に摘み取るのであります。ここでは、家族が極めて重要な意味を持ちます。そのため、家族が、再びその役割を今以上に良く発揮するための手助けをすることが、連邦政府の腐心している事の一つなのです。

ドイツの東西で、調査に答えた者の内、圧倒的多数の約70%が、外国人と共に生活することを肯定しており、問題解決の手段としての暴力を一切、拒絶しております。国粋主義が広がる余地はほとんどありません。興味深いのは、「ドイツ人であることに誇りを持つか」という問いに対して、東の若者は68%がイエスと答えたものの、西は47%に留まったことでもあります。こうして、また、ドイツの西と東の70%を超える若者が、ヨーロッパ統合のプロセスを支持したのであります。

様々な調査によりますと、戦間的極右主義者は、ドイツで約6400人を数えるだけです。90年代に入るとともに、暴力を容認する傾向がドイツ連邦共和国で増してきたことは、憂慮すべき事実であります。ドイツの西側では約10%、連邦新五州では16%の若者が最終的に暴力行為を伴う行動への参加は、考えられることとしてあります。しかし、重要なのは、80%を超える若者が、争いの際に正しいと思われる者であっても、妥協を求めるべきであるとの意見を持っていることです。

就職もまた、若者にとっては大きな問題の一つですが、その場合、東と西それぞれの置かれた背景によって、失業の捕らえ方にも、違いが見られます。東の若者の約42%が失業をドイツで最も大きな問題と考えているのに対し、西ではこれが8%でしかありません。

従って、職業教育と雇用の場の充分な確保が特に大切な役割を担うこととなります。連邦新五州の特別プログラムにより、1991年から93年までに、全ての若者に教育・訓練の機会が与えられることとなりました。これは、また、25才以下の若者の失業率が、他の年齢層よりも明らかに低い結果を導くこととなったのであります。

若い外国人の就労状況は、相変わらず充分に満足できるものではありません。若い外国人の就労の機会も、現在、全般的に良い状況にはありませんが、同じ年齢のドイツ人の若者と比較してみると、職業教育・訓練を受けていない者の比率は高いのです。そこで、連邦政府は、人的、経済的な手段を通じて、若い外国人の職業教育の促進に大きな努力を払っております。

環境保護は、ドイツの若者が子供の頃から直面するテーマの一つであります。従って、ドイツの若者が、自然や環境保護に関して非常に高いレベルの知識を持ち、また、自然資源の確保と保護を重要課題の一つと見なしていることは驚くことではないのです。

「余暇」は、当然ながら、若者にとって大切なテーマの一つであります。余暇に一番やりたいことは何かという質問には、際立った違いが見られます。男性がより多く挙げるのがスポーツ、及びスポーツ観戦であり、女性は、文化的な催しの方が多く挙げてあります。興味深いのは、西の若者ではスポーツがトップであったのに対し、東の若者では、音楽鑑賞や読書となっていることです。

最後に、国際青少年交流のテーマに簡単に触れたく存じます。ドイツ連邦共和国内では、ここ数年、外国との青少年交流プログラムに対する関心が著しく大きくなってあります。国際的な出会いや経験への希望は、殊に中部・東部ヨーロッパの国境が自由になったことにより、大幅に改善されました。EU内に於いては、あらゆるレベルで多くの交流プログラムが設けられており、これは、他国の若者たちについて、できるだけ早いうちに、できるだけ多くの経験を積むことに貢献することが狙いであります。ヨーロッパという現実には、様々な文化を持つ人々の、より一層の自由な移動、また、それによる、様々な異なった文化的伝統と生活形態との出会いが特徴となっているのです。それに於いてヨーロッパ国内の交流プログラムは多様なものとなっております。青少年交流で特に成功を収めている例として、独仏青少年交流事業を挙げたく存じます。これにより、過去30年の間に460万のドイツとフランスの若者の交流が促進されたのであります。

1993年にはドイツ・ポーランド青少年交流事業が設立されました。初年度で既に約4万人の若者と青少年事業の専門家とが交流に参加したのです。

日本とドイツの間でも交流は活発であります。20年以上前から、毎年、約120名のドイツと日本の若者が、スポーツの関係で相互に訪問しており、約40名の青少年事業の専門家が、毎年、様々な交流プログラムに参加しております。国家が行う交流プログラム以外にも市町村や都道府県レベルで数多くの活動があり、そして、また、日独協会や独日協会の間でもホームステイの形で相手国の若者を受け入れております。

学術交流の分野では、未だに両国の間には不均衡が存在します。ドイツに留学している日本人学生は、約1500人なのに対し、日本に留学しているドイツ人は170名にすぎません。

若い社会人の交流は、極めて順調な発展を見せております。日本やドイツの日本またはドイツ企業で6ヶ月から12ヶ月の研修を行う若者の数は常に増加しております。研修の場への需要は、供給を遙かに上回っております。

このように、日独青少年交流は、全体的に良好な状態にあるものの、まだ活動の余地も多いのです。日独青少年交流の強化は、大使館の活動の重点の一つになっておりますし日本側でも、大きな関心があることを存じております。

若者の交流の強化によってのみ、日独の古い世代が相互に抱く、非常に生き生きとした心の通った友好の情が、未来の世代に伝えられるのであります。

日独両国の友好という貴重な宝は、将来にも維持していかなければなりません。このためには、日独の若者に、相互に知り合い、理解し合う機会を与えることが大切なのです。こうした理解によってのみ、相手を尊重し、協力関係へ積極的に取り組むことができるのです。我々は、過去に多くの物を互いに与えて参りましたが、これは将来にも引き継ぐべきであります。ますます小さくなる世界において、我々はこれまで以上に互いに依存し合っているのであります。

日独協会総会見聞記

前橋市 佐藤 進一

我が国に日独協会があるように、ドイツ各地には日独協会があり、夫々活動している。その数は30位で旧東独の都市も含み、ドイツ連邦全体として連合会をつくり、毎年1回総会を持ち、お互いの連絡と親睦を計っている。

今年の総会は日本側の参加を呼びかけていたので、私は東京の日独協会を通じて申し込んでいた。ベルリンのハーシュ会長やブロックドルフ日独センター理事長とは以前から面識があったので、いくらかの期待感もあった。

日本側の総会は年1回東京で開催され、主に事務的連絡で終るが、ドイツでは毎年各地を巡回し、担当地の協会が主催する事になっている。期間も日本と異なり1日でなく数日(2~3)間に亘り、観光と懇親を主体としている。

今年はドイツ南西部のザールブリュッケンで開かれたが、この都市は昔石炭や鉄鋼で繁栄した工業都市である。フランクフルトから列車で行く便はあるが、私はベルギーのブリュッセルから這入る事を考えた。途中通過するルクセンブルグは全く未知の都市であるだけに、興味が湧いた。

会議は5月26日・27日に亘り市の公会堂ホールで開かれドイツ側約100名日本側5名が参加した。函館の三浦氏、茨城の保坂教授、大阪の金子氏、神戸の黒崎教授と私である。冒頭地元ザールブリュッケン日独協会長クリシェク氏の歓迎の辞があり、会議は担当会長クリング議員(上院)とガンツエンミュラー氏によって進められた。何れも昨年開催されたバイエルン協会(ミュンヘン)の役員である。以下協会運営のあり方、ホームステイの現況報告、財政基盤について等、活発な報告、論議がなされた。午後はザールブリュッケン市庁舎を訪問し、市長から歓迎の挨拶を受け、夜は駐日日本大使有馬博士主催の懇親会がハルベルク城レストランで開かれた。翌日も朝9時から開会され、ベルリンのハーシュ会長から日独協会の沿革につき説明あり、日本側出席者からのスピーチを求められ、私は右記の主旨を述べ歓迎された。尚今冬の阪神大震災については神戸の黒崎理事長よりお見舞に対する謝辞と、ハーシュ会長のスライドによる現地視察報告があった。午後はルクセンブルグへバス旅行に出かけて大会は閉幕した。



ドイツ、ザールブリュッケン日独協会総会 1995年5月26日

(日独協会総会における挨拶)

Guten Tag meine Damen u. Herren!

Es ist meine grosse Ehre u. Freude zu sprechen hier in die wichtige Versammlung von Deutsche Japanische Gesellschaft.

Ich heisse shin-iti Satoh, ein veralteter Arzt. Ich bin 1919 in Gunma geboren. Während des Krieg II habe ich Medizin studiert. Ich wohne in Maebashi, Hauptstadt von Gunma Praefectur. Gunma ist ca 100Km nord westlich von Tokio.

In 1885 hat Dr. Erwin von Baelz aus Deutschland Gunma Praefectur besucht. Er war medizinischer Professor von Tokio Univ. Es gibt viel waerme Badquelle in Gunma. Er hat hier geführt und manchmal Gunma besucht. Später ist er Arzt für Kaiser in Japan geworden.

In 1933 ist Prof. Bruno Taut, ein bekanntlich Architekt von Jugendstil nach Gunma gekommen. Er war ein Flüchtling aus Nazi Gewalt und wohnte zwei und halb Jahre in Gunma.

Zur Erinnerung an diese zwei Professoren wurde unsere Gesellschaft vor sieben Jahren gegründet. Danach haben wir viele freundlichen Austausch mit Deutschland gemacht. Von fünf Jahre hat Dr. Haasch aus Berlin uns besucht.

Über mich selbst komme ich jedes Jahr nach Deutschland und dabei treffe viele Freunde. Dieses Jahr verkaufe ich Holzspielzeuge von Thüringen zum Kindergarten in Gunma. Gunma ist es ein u. half stunden mit dem Zug von Tokio. Bitte besuchen Sie mich wenn Sie nach Tokio kommen.

Ich kann Deutschen Brief lesen aber leider nicht das Gespræch so gut machen. Doch vergesse ich nicht Ihr Freundschaft fuer immer.

Vielen Dank!

(和訳)

皆さん今日は。意義ある日独協会総会において発言の機会をえました事は、大きな栄誉でもあり喜びでもあります。私は佐藤進一と言う高齢の医師で、1919年群馬生まれです。第2次大戦中医学部を卒業しました。群馬県の首都である前橋に住んでおりますが、東京の北西約100kmの所にあります。

1885年東京大学医学部教授であるドイツ人医師ベルツ博士は群馬県を訪れました。群馬には温泉が沢山ありますが、彼は温泉療法を導入し何度も群馬を訪れました。後に彼は天皇の侍医となりました。1933年有名な新感覚派様式の建築家ブルーノ・タウト教授が群馬にやって来ました。彼はナチ旋風の亡命者で2年半も群馬に住みました。

これら2人の教授を偲んで、我々の協会は7年前に設立されました。以来我々はドイツと多くの交流を深めて参りました。5年前には此所におられるベルリンのハーシュ博士も私達を訪ねてくれました。

私自身に関しては、毎年ドイツを訪れて多くの友人と交遊を重ねて参りました。今年はチューリンゲンの木製玩具を群馬の幼稚園へ販売しております。群馬は東京から列車で1時間半の所にありますから、東京へ越しの節は是非お立ち寄り下さい。私のドイツ語は手紙を読む程度で、会話は巧く行きません。併し皆様の友情は永く忘れません。以上でご挨拶に代えさせて頂きます。(終)

◎ 会員のお便り ◎

ドイツを旅して

高崎市 豊泉 伊三男

かねてからドイツを旅して見たいと思って居た小生は、今年6月、家内とフランクフルトへ向け成田を飛び立った。途中機内アナウンスで「只今ハバロフスク上空を飛行中」と聞きシベリヤ抑留の歌を思い出し遙か1万メートル上空から「般若心経」を唱えた。

ドイツ上空に入ると、シベリヤと違い長方形の緑や黄色の畑が整然と広がり勤勉なドイツと言う印象を先づ受ける。フランクフルトの1日目は、ハイデルベルグ観光、古くから詩人や音楽家に愛された街は絵の様に美しかったが、山腹の城は、ルイ十四世の継承戦争で破壊されたと聞き、陸続きの為昔から多民族と係わって生きて来たドイツの厳しさを感ずる。2、3日目共、去年高崎経済大学へ留学生としてドイツから来日し我家に2ヶ月間ホームステイして居た、ミス・イエシカと逢う。3人でライン下りを楽しんだり、彼女の家に立寄り、庭のさくらんぼを摘んで頂き、とてもリラックス出来た。その後、ヴェルツブルグを起点とするロマンチック街道の旅をする。



アシアンベルグの
ヨハネスブルグにて
イエシカ写す
'95・6・30

ローテンブルグでは、聖ヤコブ教会でパイプオルガンの演奏を聴いたり、日曜礼拝にも出席し、敬謙なクリスチャンの清らかな讃美歌に心を洗われた。又中世そのままのこの街を観光中、ブルク公園から犯罪博物館へ行く道でガイドが「ここは犯罪者が処刑場へ向かう時通った道で地獄通りと言いました。」と説明すると同行の一人が「今は極楽トンボの通り道」と缶ジュースを片手に皆で歩いた。又ホテルでの事、カウンター女性は「ニコリ」ともしない人で顔は面長、目尻上り、鼻は高く、黒っぽい中世の服を着て居た。家内が「あの娘、箒を持たせれば魔女よね」と言うと同行人曰く「マントを着せれば飛んでっちゃうよ」との事。翌日ミュンヘンへ行く途中アウグスブルグ観光、この街は二千年の歴史を持つ街と言うが、石畳の広いマクシミリアン通りに立つと、両側の建物が皆同じ高さで、窓まで同型であったが、これは我々に威圧感と緊張感を感じさせた。全般的にドイツはこの様な家並だが、ここでは窓に飾られた花にはじめてほっとさせられ、ずっと見て来た窓辺の花にはさまざまな意味が含まれていた事を知る。

ミュンヘンでは4泊し、ルードリッヒ二世ゆかりの城を4つ観光する。只々、スゴイの一言だが、釈迦の「人間の欲望は、かのヒマラヤの山々を全部黄金にし尽くしても尽きない」と言う言葉を思い出し、人間のはかなさ、を感じてしまった。12日間の旅であったが、ドイツ人の歴史と自然を大切に、命令を良く守り、又外来者に対しての細かい心づかいに感動した旅であった。色彩豊かなドイツから成田に降り立つと日本は雨、墨絵の様であった。

一人ずつの二人旅
晩秋のドイツを好きな人だけ
選んでぶらり旅の十日間の一シーンです。
晩秋の
心豊かな旅路にて
たのしき人の想い出
忘れじ
前橋市 土屋喜代子



右より
田口久美子氏・土屋喜代子氏

「黒い森の中の古城」

この頃思うこと

前橋市 古屋 賀津子

人間は辛い時こそ、温かい人の心が身に沁みると申します。殺伐とした現世に在って、自分の事ばかり正当化して、横車を押そうとするのは個人だけ、ではなく、国家間にも同じ事が言えると思います。戦争を早く止めさせるのが人道に大切だと思ったから原爆を用いたなどと、苦しまぎれに情けないことを滔々と述べ立てて恥ずかしく無いのかと思う大国もありますが、この程テレビで、原爆投下の直後、結果調査を命じられた米軍人が、五十年ぶりにその様子を語り、広島の大惨事を目のあたりにして、あまりのむごたらしさに、これは人間のなすべき事では無い、もう既に戦う力をすっかり失って居る民間人に、これ以上酷い仕打ちは止めて、長崎への投下は、絶対中止して欲しいと嘆願したが、どうしても聞き入れて貰えず、再び惨事を起こしてしまっただけで、五十年間、時にはうなされ、体をゆさぶり続けて居る様な状態で、涙が止め度なく溢れ、どうにもならなく成ってしまう。広島・長崎を想い、21才の青年将校が、70才を過ぎる今日まで念頭から、はなれた事は無いと夫人共々語って居りました。反対の立場の人の中にも、この様な人も居たのだと思い、改めて戦争というものの悲慘さを思いました。又最近の新聞に依りますと、50回目の原爆忌を機にベルリンなどドイツ各地で、追悼コンサート、レクイエム、ミサ等々開催して下さるとの事。共に敗戦国として、あらゆる辛酸を嘗めつくして居り、その痛みを知悉している故の心優しき思いやりと思いますと、身に沁みます。ドイツと日本の敗戦後の在り方がよく比較されますうち戦った国々にかこまれている点か、一層辛いものだったと推察するのですが、その処し方について大いに学ばなければと思います。

(ベルリンって面白い) その2

川口市 松浦あきの

一昨年の夏、ベルリンに旅行した。一応はハネムーンという名目だったが、行った所は一般の観光客がおそらく近づかないような場所ばかりだった。例えば「ベルリンの壁」の後の瓦礫の山、電車が通過するだけで閉鎖され廃墟と化した地下の幽霊駅、外壁が所々剥がれ落ち埃にまみれた年代もののアパート、気をつけないとすぐ犬の糞をふんでしまう石畳の路地などなど。その頃、ドイツの風景といえば赤い屋根のつらなるメルヘンチックなものしか知らなかった私は、これらを目の前にして少なからずショックだった。

が、しかし、驚かされたのは町の様子ばかりではなかった。9年前、ベルリンに主人が留学した時の友人でクラスという男性がいた。当時、彼には奥さんと二人の幼い女の子がいて、主人が家に遊びに行くと温かい手料理でもてなしてくれたそうだ。それが、数年たった時には離婚寸前の別居状態になっていた。原因は統一後、奥さんが家庭よりも仕事に精を出すようになったからだった。有能でありながら東側でくすぶっていた彼女にとって、西側からの刺激はとってもし新鮮だったに違いない。

また折しも久しぶりに彼のアパートを訪ねたその日は、何ヵ月かに一回の父娘の対面の日だったのである。前日にこのことを知らされて、一時は辞退させていただこうと思っただが、クラウスの熱心な誘いに応じて出掛けたわけである。主人との再会を喜ぶ奥さんや娘さんたちのそんな姿を、あたたかく慈しむように見守っていたクラウスの眼差しを今も忘れることができない。短い時間だったが、本当に楽しそうだった。

奥さんと娘さんが帰ってしまった後、しばらくは淋しそうにしていたが、やがて気を取り直したように明るさを装い、私たちにお茶を入れてくれたクラウスの胸中はいかばかりだったろうか。その頃、これから結婚生活を始めようとしていた私たちには推し量れるはずもないが、ただ妙に悲しかったのを覚えている。

ドイツの離婚率は日本のそれを上回っているという。職業を持つ女性の社会的進出が著しいというのも原因の一つだろうが、そればかりではないような気がする。女性が社会に出て働くことによって国力が上げられ、それにより男性が犠牲になったというのは言い過ぎかも知れない。私ももしドイツ語をすらすら話することができたら、なぜ離婚しなければならないのか、ぜひ同年代の女性に直接、本音の意見をお伺いしたいところだ。日本も近い将来、そうならないとも限らないし、下世話かも知れないが、離婚率の高さというのは複雑だがやっぱり興味をそえられる問題だ。

だが統一後、クラウスの一家のような例はたくさんあるという。でもそれはほとんど日本まで届いてこない問題だ。奥さん連中ばかりを責められないが、もう少し何とかならないものか、と思う。

東西統一のとんだ置き土産と言うべき街の風景の変貌ぶりや、人々の心情までも側面からかいま見た気がする。

私は自分の目で確かめたもの以外信用しないのだが、瓦礫の山から離婚の多さまで、釈然とはしないが、「これがドイツの現実」と認めざるを得ないだろう。

そんな意味で今回、東西分裂時代の名残りが街のあちらこちらにまだ散乱しているベルリンが見られて有意義だったと思っている。でも次に行く時は、ロマンチック街道のように美化された一般観光コースにも行ってみたいと考えているミーハーな私である。

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。(800字以内)

◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。

ベルツ花コレクション

草津町 横山 秀夫

○手作りのアルバムに花夫人が整理せる江戸染織裂虫食いもなし

○ベルツ花が蒐集せる江戸染織裂おほかた庶民の婦人ものなり

○江戸中期の婦人が身につけし、染織とふ高機織の雲竜紋美し

○日本女性の手に織りたりと誇りにベルツ花染織に解説附せり

○花夫人がドイツに残せる江戸染織裂スライドに見てゆく一千点越ゆ

○花夫人ベルツの国に在りし日に江戸裂整理に励みたりしか

○日本染織裂ベルツ花みづから解説附しドイツに残しきその知識はや

沼田市とフュッセン市が姉妹都市に!

沼田市 角田 勤

9月29日、フュッセン市において、沼田・フュッセン両市の姉妹都市提携の調印が行われました。写真は8月2日の仮調印(沼田市)の時のもの。

フュッセン市はドイツロマンチック街道の終点で美しい観光地。近くにノイシュヴァンシュタイン城があるので有名です。



約5年間の両市の交流が実を結び、今回の調印に漕ぎつけたわけです。ここまで様々な苦勞もありましたが、今後の実りある交流が大いに期待されます。

クイズ: 「姉妹都市」

沼田ドイツ語会

次の都市は、下記のドイツのどの都市と「姉妹都市」でしょうか?

ヒント

- 1) 札幌市……? (〇〇〇〇〇、サッポロ、ミルウォーキーというCMがありましたっけ?)
- 2) 秋田市……? (ドナウ河もこの町でドイツと別れる)
- 3) 東京都……? (激動の時代を生きぬいてよみがえったドイツの首都)
- 4) 青梅市……? (ライン下りもローレライからこの辺までがハイライト)
- 5) 京都市……? (ライン河にその影を落す大伽藍)
- 6) 大津市……? (ロマンチック街道の起点。レントゲン、シーボルトで有名)
- 7) 石橋市……? (ドイツ語で発音してみると!)
- 8) 長浜市……? (2,000年の歴史。フツガー家で有名)
- 9) 大阪市……? (アルスター湖と動物園で名高い港町)
- 10) 松山市……? (南シュヴァルツバルトの玄関口。大聖堂のある大学町)
- 11) 広島市……? (美しい庭園と国際見本市で有名)
- 12) 熊本市……? (ネッカー河と古城の大学町)

a)ハンブルグ b)ミュンヘン c)ベルリン d)ハノーファー e)パッサウ f)ヴュルツブルク g)シュタインブリュッケン h)ハイデルベルク i)アウグスブルク j)ケルン k)ボツバルト l)フライブルク



群馬でドイツを体験

「赤城高原牧場 Kronenberg」訪問記

川口市 松浦 孝久

赤城山麓の宮城村にオープンした待望のテーマパーク「赤城高原牧場クローネンベルク」を訪れました。ドイツ村と呼ばれるだけあって園内はドイツ一色。街並みを忠実に再現してあるばかりでなく、歌や踊りを披露してくれる陽気なドイツ人たちもいて、日本にいることを忘れてしまうほど。その見事な演出ぶりには驚かされます。園内ではビールやソーセージといった定番の食事も楽しめ、群馬に居ながらにしてドイツを体験できます。

入場すると、中世の城壁都市を思わせる立派な門が迎え入れてくれます。この門をくぐり抜けると、石畳の広場が目前に表れ、周囲にはメルヘンチックなかわいらしい建物がいっぱい。建物は、ドイツを始めとするヨーロッパのお菓子や生活雑貨、絵本などのショップになっていたり、農機具とか台所用品などドイツの昔の生活を知るのに興味深い資料の展示館になっています。そして見逃せないのは、パン、ソーセージの工場と売店。ここでは輸入もののワインやチーズといったドイツの味もそろっており、見るだけでも面白い所です。

この広場を過ぎると、左手には柵で囲まれた大きな牧場があって数十頭の羊がいます。日に数回、若者(ドイツ人!)が羊たちを連れ出し、回りに広がる草道を練り歩くパフォーマンスを見せてくれます。ちゃんと羊を追う犬もいて、これがアルプスの牧場の風景かな、と思わせてくれます。牧場の側には、季節ごとの花が植えられた大きな庭園。そして、その向こう側にはバイエルン地方の陽気な歌や踊りを見せてくれる野外劇場へと続いています。広い園内をぐるりと回ってくれるバスも走っていたり、ドイツ風の食事でもできるレストランもあります。

その他、遊ぶ施設としてゴーカートのコースや変形自転車、池には足漕ぎボートなども用意されているため、一日いても飽きません。ぜひ天気よい日に足を運んでみて下さい。

ドイツという名称について

高崎市 須郷 登世治

ドイツ語のドイツランドとは、「ドイツ人 Deutsche の国 Land」を意味し、英語ではジャーマニー Germany、フランス語ではアルマニー Allemagne、とよばれている。現在ドイツ語またはドイツ人を意味する Deutsche という言葉は、8世紀ごろから用いられていたが、元来は「theudish」という形容詞に由来し、「民衆本来の」という意味をもっていた。つまり、「民族古来の言語を話す」という意味であり、ここからドイツ語を語る人々＝ドイツ人を意味するようになり、さらにその人々の国を指す言語として用いられるようになった。従って、「ドイツ」という概念は、まず第一に言語ないし、それをを用いる人々を意味するものであり、国境とは拘わりなかったのである。ドイツ語を話す人は、現在東西ドイツからオランダ、スイス、東部フランス、オーストリア、北部イタリア、西部ポーランドにわたり、その数は約13,000万人といわれている。

第一次大戦に破れたドイツは、共和国となり平和主義、民主主義に徹した立派なワイマル憲法をつくったが、ナチスの登場を許したのは、議会が機能しなかったからである。14年間に20もの内閣が出来てはつぶれた。太平洋戦争前後の日本も、軍部にプレーキをかける政治が存在しなかった。ほんの半世紀ちょっと前に起こったことが、再び起こらないとは限らない。安定した政治を望むものである。

北関東造形美術専門学校において、平成7年7月16日、ギュンター・ウッカー(Guenther Uecker)氏の100点余の作品につき、稲野さんの通訳にて、フィルムが上映され、佐藤副会長と同行することができた。



写真説明 左から、
須郷、ギュンター・ウッカー、佐藤進一の各氏

乱雑に打ち込まれた釘、こわれた椅子を並べて汚れた紐で結んだ舟のようなもの、これらにも統一された芸術精神を汲み取ることを感ずることができ、これからのドイツ美術の姿を考えさせられるものがある。

さあ、ドイツ料理に挑戦しましょう!!

前橋市 石坂 絵美子

昨年春まで8年間滞在中に覚えたポピュラーなドイツ料理1点、御紹介します。

「リンダー・ローラデン(牛肉の巻き煮)」

◆材料(4人分)

うす切り牛肉(大きめ)…8枚	マスタード
ベーコン(シュベック)	ブラウンソースキューブ
玉葱	(500gの水でとく)
人参	シャンピニオン

- ①牛肉を広げ、内側にマスタードをぬる
- ②あらみじんにした玉葱、人参、ベーコンを肉の中央にのせ、肉で巻くようにして包む
- ③フライパンで、巻おわりのところを下にして焼き、はがれないようにしてから、まわりをぐるりと軽く焼く
- ④ナベにスープをふととうさせ、ローラデンを底に並べる
- ⑤赤ワインを大きじ2杯ほどに加え、塩、ペッパーで味を調える
- ⑥シャンピニオンを加え20分煮詰め、肉をとり出し残汁を煮詰めソースとする

書籍の紹介

平形 義人

(1)『異文化への探求』(小林喬著)

特にドイツに焦点を当て、ドイツ人の営んできた暮らしの中に、また民間行事や習俗に、文学や芸術を生み出してきた要素を探し求めた既刊『異文化の接点』の姉妹篇・群馬県文学賞受賞作(三修社 Tel.03-3842-1711) ¥2,200

(2)『眠っていたドイツの民話』(小林喬編著)

ドイツの素朴な田舎の世俗的音りのする民話、悪魔や魔女が読者に新たな関心を呼び起こすか?(群馬出版センター Tel.03-3818-7345) ¥2,500

(3)『ベルリン特電』(江尻進著)

終戦直後日独協会創立に率先協力、現在同副会長の要職に在る著者は1939.2月新婚早々に同盟通信社ベルリン支局長の内命を受け、郵船宮崎丸特別船客となり1939.6月ベルリン着任、ヒトラーがポーランド進攻し、ワルシャ陥落の際の第一線視察のヒトラーとの握手に始まり、敗戦までの6年に亘る生々しい体験を語られた。「正しく事実は小説よりも奇なり」の言葉の如き、興味津々のベルリンよりの同盟通信支局長の特電である。又著者は1990.4のぐんま日独協会第三回大会に御夫妻で御来県下さった元新聞協会専務理事である。(KK共同通信社 Tel.03-5572-6021) ¥1,800

(4)『日本とドイツー深き淵より』

戦後50年、朝日新聞社が歴史を見つめながらも、より積極的に現在と未来へのメッセージを投げたいと考えて、編集した朝日文庫。第31章に「ハース大使物語」があり、会員必見の書。(朝日新聞社 Tel.03-3545-0131) ¥620

(5)『もうひとりのブルーノ・タウト』

文明批評家論の創造的提言——(朝雲久見臣)

1933.5月ヒトラーの逮捕を避けて来日した不世出の建築家タウトは1934.8月より1936.10月まで高崎少林山洗心亭を「日本における私たちの故郷」と日記に記し、建築家としては不遇であったが、著書、講演等により「日本の美」を国の内外に再発見せしめた。1938.12月24日トルコで客死したタウトのデスマスクは夫人エリカにより翌年9月少林山に納められた。本書は群馬に因む日独友人顕彰の一里塚。願はくは、会員座右の書たらんことを!!(ぐんま日独協会企画協賛 Tel.0272-51-4341) ¥3,500

前田普羅 —— 句集「春寒 浅間山」展 ——

- ・期間 9月15日(金)～11月30日(木) ◎お問合せは
- ・会場 草津高原ホテルヴィレッジ ☎0279-88-3943